

（別紙4） 令和 元 年度

（様式1）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028	
法人名	社会福祉法人 寿真会	
事業所名	グループホームらくえん倶楽部	
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1	
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年12月10日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は、長閑な田畑に囲まれ、中庭では季節の花を育てたり野菜を育て入居者の皆様の喜ばせている。訪れた家族や地域の方々にも好評である。
事業所は、特養と併設されていて常時看護師がいるため、医療面でも充足されている。そのため、夜間もオンコール体制を整えているので安心して生活出来ている。
職員は、『笑顔で挨拶 明るいグループホーム』を掲げ、日々の職務に当たっている。家庭的な雰囲気の中で入居者の方々と家族のように日々を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は住宅や田園が広がる閑静な場所ではあるが、近くには環状道路や病院、工場、商業施設等もある利便性の良い立地である。特別養護老人ホームに併設し、2階建ての1階部分が1ユニットの事業所になっている。各部屋や廊下は明るく、トイレも車椅子対応なので広くて使い易い。「笑顔でありさつ、明るいグループホーム」を年間目標に定め、職員は常に笑顔を忘れず利用者や来訪者に接し、日頃からの取り組みが事業所内の雰囲気を明るくしている。地域密着型の特養と併設のグループホームとして、一つの建物の中にあるため、医療面や非常時には相互の連携体制が出来ていて利用者は安心して生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づき運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいた、グループホーム独自の理念をユニットのホワイトボードに掲示して、いつでも確認できる様になっている。	法人の基本理念は毎月1回唱和している。この理念を基に事業所独自の目標を「笑顔で挨拶、明るいグループホーム」としている。ユニット会議で目標を検討し、リビングのホワイトボードに掲げ、いつでも職員が意識できるようにしている。また、ミーティングでも目標の確認をし、利用者の言葉に常に笑顔で対応できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ふるさと祭り)には、積極的に参加する様に努力している。	自治会には法人として加入しているので、回覧版や情報紙で地域の情報を知り、河川の清掃や市の防災訓練に参加している。ふるさと祭りに参加したり、特養のホールで地域の中学生の吹奏楽部の演奏、高齢者のバンド演奏、保育園の踊りや歌の訪問等がある。オレンジカフェを開催し地域ボランティアとの交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第二土曜日に開催しているオレンジカフェをとおして、地域のボランティアの協力も得ながら交流し認知症の人を理解してもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の方々からの質問や意見を聞き、情報交換する事により、事業所のサービス向上に活かすよう努力している。	奇数月の最終水曜日に特養と合同で開催し、特養とは別に事業所から利用者の状況や行事の報告をスライド等を使って説明している。会議には利用者も参加し家族、民生委員、行政担当者が出席している。家族から要望があったインフルエンザ対策の面会制限を緩和することが決まり、会議内容は家族会で報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席、認知症を考える検討会に参加している中で、地域密着型ということで、困ったこと・分からないことは行政に相談している。	窓口に向いて書類作成や運営等について情報交換している。「認知症を考える検討会」や「医療連携会議」に出席し、各専門職の活動報告やテーマ発表等を職員間で共有している。地域包括支援センターとはオレンジカフェについて検討し協力関係ができています。地域の認知症捜索訓練に職員が行方不明者役で協力した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として、年2回必ず施設内研修に取り入れ、職員全員で正しく理解し取り組んでいる。	法人全体で年2回の身体拘束、権利擁護等の研修を受けている。身体拘束委員会は施設長、施設長代理、管理者、看護師、作業療法士等で構成され、協議検討している。身体拘束防止のビデオを見たり、権利擁護や身体拘束をテーマとしたグループワークを実施した。スピーチロック、玄関の施錠等職員間で注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく、施設内研修へ取り入れ、山梨県グループホーム協会での研修等へも参加し、虐待防止には注意を払い取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を、毎月職員全員が参加できる日程にし、事業所内で直接関わる事がなくても理解し活用できるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し理解していただき、分からない事項や質問にも丁寧に答え納得して頂いている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年10月と3月に家族会を開催し、情報交換や意見を聞いている。意見・要望箱も設置してある。	玄関に意見箱を設置したり、面会時にも家族と積極的に話すようにしている。家族会は3月と10月に開催し、半年間の活動や利用者のおやすみを報告している。特に10月1日が法人の創立記念日のため、屋台や昼食を出して、家族と利用者、職員が交流している。家族会から、施設周辺の除草作業をする提案があり、実施された。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回は介護指導員と面談する機会があり、意見や提案は言えている。 月に一度のミーティング時においても、職員の意見・要望は聞き入れ反映できるところ運営に活かしている。	毎年1回、介護指導員(施設長代理業務)と面談している。異動希望や相談の他、ケアに関する意見、要望も言える機会がある。入浴の順番、オムツやバットの大きさ等について統一することが決まった。また、備品購入についても職員からの要望に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の昇給・年二回の賞与あり。 長年勤務者(5年・10年)への表彰も設けられている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務改善指導記録を利用し力量を把握している。 施設内研修は毎月開催し、全職員が参加できるように三日の日程で行っている。 施設外研修の情報もメールで周知し積極的に参加する様促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会・山梨県グループホーム協会に加入しているため、研修会、講演会、実践発表会には積極的に参加する様に努力している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今一番何を困っているのか、何が不安材料なのか、会話の中から把握し、本人が安心できる生活へとつなげている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これから生活していく環境の中で、家族が困り心配し不安なことを丁寧に傾聴し、相談にのることで信頼関係が築けるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員も含め、カンファレンス等の話し合いの場を設け、必要なサービスも考えニーズに答えられる様対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、家族同様に寄り添い一緒に行動することでコミュニケーションを図り関係を築いている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には必ず近況報告を行い、お互いに情報共有しながら共に支えていける様に努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと巡りと称して、今まで暮らしてきた懐かしい場所等へ行き、馴染みの人達も気兼ねなくいつでも面会に来れる優しい家庭的な雰囲気味わって貰えるように支援している。	利用者を2~3人のグループに分けて、ふるさと巡りと称して自宅や実家を見に来る外出の機会をつけている。馴染みの理髪店や墓参りに行くこともある。以前住んでいた近所の方が遊びに来てカラオケをしたり、職場の同僚が来ることもある。逆に会いたくないという利用者もいるので配慮している。携帯電話を使う方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケが好きで、カラオケをしている時は入居者同士、笑顔で楽しみ、音楽を聞きながら踊っている方もいれば、合いの手を入れ声をかけてくれたりと大切なコミュニケーションのツールになっている。陰湿なムードになりそうな時もあるが、職員が間に入ることで納めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、地域で顔を合わせる事もあったり、お祭りの場で会う事もある為必要な時はいつでも相談のり支援するように努めている。			
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員が家族の意向を聞き、都度計画書を作成している。本人からの意向も聞き取りを行うが、中々困難な場面が多く、日々の生活の中での会話から把握することも多い。	思いを言葉で伝えることが難しい方が多いが、日頃の会話や聞き取った事をケアマネに伝え、介護計画の更新時にプランに反映している。体調が落ちてきた人は言葉での表現が困難だが、家族の話や参考にしたたり、本人が食べる事が好きなので、話題を向けることで表情から汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査を行う時に、丁寧に細かく家族に聞き取り、入居時の必要書類として準備してある生活歴へ記載してもらうことにより、これまでの暮らしを把握する様努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務した職員が、毎日一人一人の様子をケース記録に残し、情報共有している。 24Hシートも活用し、ミーティング等でもカンファを行い把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてカンファレンスを行い、他職種連携しながら入居者様が安心して暮らしていける計画書を作成している。 毎月、担当職員が介護計画に沿った評価を行い、介護支援専門員が計画書に反映し作成する。	入居に向けて、ケアマネと管理者が訪問して様子を見たり本人、家族から聞き取りを行う。入居時は暫定的な介護計画を作成し、ミーティングで職員の意見を聴き3か月毎にモニタリングを行っている。短期目標は3か月、長期目標は6か月でモニタリングし、本人の状況に応じた見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	8月より、福祉見聞録という介護ソフトを導入し、現在移行期間であるため紙ベースの介護日誌と並行しながら大変な面もあるが活用し情報共有している。 ヒヤリハットを記入することで気づきや事故を未然に防ぐよう活かしている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署・他職種と連携を図り、既存のサービスには捉われない臨機応変な対応が出来る様努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の馴染みのボランティアが介入することで昔話が出来たり、入居者様の言葉を引き出すことにより楽しい時間を過ごせるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を家族に選択してもらい、決定している。 往診者三名、家族付添い受診者六名の状況であるが、受診する入居者様については情報提供を忘れずに行っている。	かかりつけ医の訪問診療を受けたり、家族の付き添いで受診している。家族が付き添えない場合は職員が対応している。受診時には情報提供を行い医療との連携を図っている。整形、眼科等の専門医の受診や訪問歯科を受けている利用者もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養が併設であるため、常時看護師が在中しているのでいつでも相談が出来る体制である。 夜間帯も、特養と一緒にオンコール体制がとられている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の病院が近隣あり、入院時も安心して治療出来ている。転院等が必要になった時でも主治医が探して紹介状を出してくれる為、迅速に対応できている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し理解してもらっている。 重度化した場合や終末期についても、主治医や看護師と連携を図り、他職種一丸となりチームで支援している。	重度化や終末期について入居時に説明し同意を得ているが、利用者の状況に応じて、医療関係者や家族、職員等の協議を行い方針を決めている。主治医の指示に基づいて、訪問看護ステーションとも連携しており、医療面や夜間体制が整っている。年1回は看取りについての研修があり、マニュアルに沿って実践されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、マニュアルに従い対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年2回以上の訓練を行っている。 グループホームからの出火を想定し行うこともある。	法人として年2回以上の避難訓練をしている。毎月1回、防災委員会があり年間訓練計画を作成している。防災講話、参集訓練、夜間想定訓練、消防署の点検、連絡網の見直し、消火器の使い方等を実践している。事業所が火元の想定で訓練を実施し、中庭に避難した。利用者が避難誘導に慣れる方法を検討していく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修においても、接遇の研修を行ったり認知症についての研修も実施している。いつでも入居者様を最優先に考え笑顔を忘れず丁寧な言葉掛けをするように実践している。	毎月、相談員が講師となり、接遇に関する施設内研修を実施している。理念、接遇、医療、口腔ケア、事故防止、防災、感染症予防、身体拘束、権利擁護、認知症予防等がテーマとなり、特に利用者への言葉かけには留意し、グループワークで共有している。個人情報の管理は徹底し、プライバシーに配慮している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、何を望んでいるのか本人の行動を見守り傾聴することで自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースで日々暮らしてもらっているが、職員の発信で行うカラオケやドライブも多い。 入居者様から出る希望はなるべく個別レクで支援できる様努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理髪サービスが入る為、入居者は利用している。中には、馴染みの床屋さんに家族が連れていくこともある。 服装は、自己決定出来る方には選んでもらい、季節に合ったおしゃれをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に調理出来る事が少なく、下ごしらえやテーブル拭き、片付けを手伝ってもらっている。	メニューは栄養士が作るが食材は管理者が発注したり購入している。外食や誕生祝、レクレーション等でメニュー変更することもある。利用者も出来る事は職員と一緒に、皮むき、和え物等を手伝うことがある。個別レクレーションでラーメンを食べに行ったり、担当職員と外食することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌の活用で職員全員が情報共有している。 栄養士もいる中で、バランスの取れた献立を立てて食事を楽しみ、水分補給もこまめにいつでも摂取できる様支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けを行い、口腔ケアを促している。 毎週木曜日に歯科医も介入しているため、診てもらえることが出来ている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のオムツ対応の方でも、日中はリハビリパンツやパット装着で過ごせるように支援している。 トイレ誘導も定時で行ったり、トイレの間隔が長い方には都度の声掛けを行うよう心掛けている。	介護日誌で排泄のチェックをしている。夜間オムツ使用の方もいるが、日中はできるだけリハビリパンツで過ごすように支援している。半数の利用者が布パンツを使用しており、自力でトイレに行っているが時間を見ながら必要に応じて誘導したり、声かけしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動は散歩に行ったり音楽に合わせて踊ったり、作業療法士のリハビリ体操に参加してりして体を動かしている。 三日排便がない時には、主治医の指示のもと薬で排便コントロールしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を奨励するように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定せず毎日入れるようにしている。拒否がある方も無理には入浴に誘わず変更し、週二回入浴できるように支援している。	毎日入浴できる体制になっていて午後から2名が入っている。拒否する方もいるので、タイミングを見ながら1週間に1~2回は入れるように支援している。個人持ちのシャンプーやソープ、入浴剤を使用する等、利用者ひとり一人の意向に沿った入浴を楽しんでいる。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を共有し状況に応じた支援をしている。夜間帯は眠剤を服用されている方もいますが、ふらつきには十分注意し、眠れない時はお茶等を提供し一緒に飲みながら傾聴し、安心して休めるまで寄り添い対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時、内服説明書がユニット内にある為、疑問に思ったときは必ず確認している。服薬支援はマニュアルどおり行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・ドライブ・カラオケ・パズル・菜園等、個々に合った楽しみの提供に努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得ながら、本人の希望に添った外出が出来るように支援に努めている。個別ケアとして対応している。	天気の良い日には、事業所周辺や広い敷地内を散歩している。外食でラーメンを食べに行ったり、イチゴ狩りに行っている。バラ、紫陽花、ひまわり、ハーブ庭園、紅葉見物等季節の花々を鑑賞する機会もある。法人のワゴン車やバスを使い利用者全員で外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、預かり金として家族より預かり、事務所で小口現金出納帳で管理している。個別レクなどで出掛ける際には持参している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、いつでも本人に繋がられる様支援している。本人からも希望があれば都度対応できる体制になっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方が季節の花を持って来てくれたり、掛け軸を提供してくれ季節感のある空間の提供に努めている。お正月・七夕・ハロウィン・クリスマスも入居者の方と一緒に飾っている。	室内は床暖房が暖かく、清潔感がある。テレビの前にソファとテーブルがあり利用者は食事の後にくつろいだり、パズルを楽しんでいる。キッチン是对面式で利用者は職員と会話しながら食事したり、職員からも様子が見えるので目が届く。また、利用者はホワイトボードに書かれているその日の献立や日付に関心を持って確認している。壁面には季節の装飾がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	三人掛のソファを設置する事により、好きな時間に気の合った入居者同士で会話を楽しませている。一人で過ごす時間を大切にしている方にはマイペースで自由に過ごして貰っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた家具類を入居時に搬入してもらい、使い慣れた箸やお茶碗も使うことにより、家庭の延長として生活できる様支援している。	カーテン、ベッド、洗面台、タンスが備付けされており、壁面には絵画の額と温度計が設置されている。個人持ちの椅子やテーブル、テレビやハンガーラック、家族写真や行事の時に撮った写真等を飾っている他、利用者が個々に使用していた箸や茶碗、お椀、湯呑みを持ち込んで毎日使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由歩行される方も多いため、一人勤務の時間帯は家族に説明し了承を得てユニット入り口を施錠する事もある。しかし建物が特養と併設されているため、顔なじみの職員も多いのでユニットを出られてしまっても安心して生活が送れている。			